

活用ナビ

①【ねらい】大化の改新のあとの税のしくみと農民の負担がわかる。

②●木簡とは何か、教科書の説明から、あてはまる言葉を書きましょう。

③●題を読みましょう。

- 都とはどこでしょうか。平城京を丸でかこみましょう。
- 記号は運ばれた生産物です。何か書きましょう。

④●生産物の分布で気づいたことを書きましょう。

※生産物ごとに分布を見るように指示する。
どこに多いかという視点で見るとよいことを助言する。

④●都までの日数であてはまる地方を書きましょう。

今の何地方が多いですか。
※遠い地方は3週間以上もかけて運んだこと、その地方が多くあることに気づかせ、思ったことを話し合わせたい。

④●どんなことがいえるでしょうか。

※生産物の分布と「都までの日数」からいえることを書かせる。

6 年-6

2-2 大陸に学んだ国づくり
大化の改新と新しい政治のしくみ

P94～P95

6 年 組 番

名前

①【ねらい】大化の改新のあとの税のしくみと農民の負担がわかる。

②木簡について書こう。

- ・木簡は、**文字** が書かれた木の札
- ・木簡は、**都に運ばれてくる品物** に付けられていた札

③【基本】教科書の資料を見よう。

- ・題を読もう。
- ・都の平城京を丸でかこもう。
- ・どのような生産物が運ばれたのだろうか。

塩 海草 魚 布など

④【ポイント】生産物の分布で気づいたことを書こう。

- ・布などは、北は東北地方、南は九州地方から運ばれた。
- ・海草や魚は平城京に近い近畿地方に多いが、九州地方からも運ばれた。
- ・塩は瀬戸内海のまわりに多い。特産物のようだ。

・「都までの日数」をくわしく見てみよう。

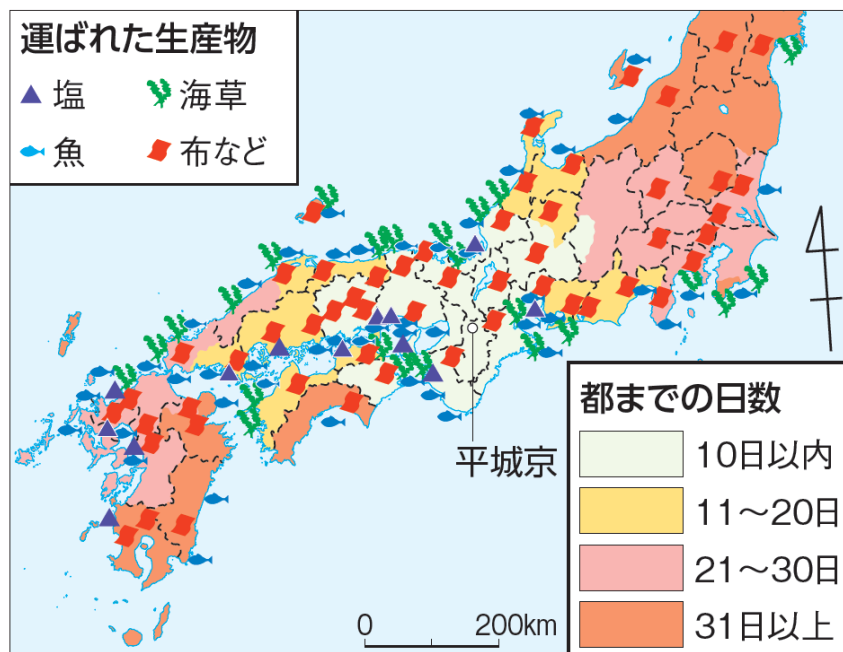
- 「10 日以内」 →今の何地方が多いか。(**近畿地方、中部地方**)
- 「11 日～20 日」 →今の何地方が多いか。(**中部地方、中国地方、四国地方**)
- 「21 日～30 日」 →今の何地方が多いか。(**関東地方、中国地方、九州地方**)
- 「31 日以上」 →今の何地方が多いか。(**東北地方、四国地方、九州地方**)

④●どのようなことがいえますか。

- ・全国各地から特産物が都に運ばれ、人々の暮らしをささえた
- ・東北や九州からは、31 日以上の日数をかけて運んだ。負担が大きかったのではないか。

©社会科資料読解ワークシート開発プロジェクト 2020

資料の読解



8世紀ごろ、農民は国から割り当てられた農地を耕す代わりに、租・調・庸の税を納めていた。このうち調は地方の特産物を納める税であり、庸は布を納める税（あるいは都で働く）で、農民が直接都まで運んでいた。それらの生産物の分布と都までの運ぶ日数を示したのが、この地図である。

生産物には、項目別に見ていくと特徴があり、塩は瀬戸内海周辺から運ばれ、海草は日本海側の沿岸から運ばれた。魚は現在の近畿地方が中心であるが、遠くは現在の新潟県や鹿児島県から運ばれたことがわかる。また、布などは全国各地から運ばれていた。

また、「都までの日数」を見ると、近畿地方や中部地方の一部は10日以内であるが、そこから遠ざかると11～20日、21～30日が増える。東北地方、四国地方、九州地方には31日以上のところもあり、直接都まで運ぶことが大変な負担だったことが想像できる。

平城京には10万人の人々が暮らしていた。その人々の暮らしを支えていたのが、このような全国各地から運ばれた生産物であったことがわかる。

読解の方法

- (1) 題、都の位置、生産物の種類を基本内容として確認する。その後、生産物の分布について読み取る。それぞれ、分布が多いところを「塩は瀬戸内海のまわりから運ばれた」というようにワークシートに書かせる。全国各地から、生産物が都に運ばれてきたことが理解できる。
- (2) 次に「都までの日数」について読解する。4つの期間で色分けされているので、現在のどの地方がどれほどの日数を要したのか、見ていく。平城京の周辺の地方は10日以内であるが、当時の多くの地方が21日以上をかけて、生産物を都に運んだことに気づかせ、当時の農民の負担について話させたい。
- (3) (1)と(2)で読解したことをもとに、どのようなことがいえるか考えさせる。都の人々の生活は全国各地の生産物で支えられていたこと、遠い地方の農民ほど負担は大きかったことを押さえさせたい。